

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「登場人物の気持ちをたしかめ、そうぞうしたことをつたえ合おう」 教材名「春風をたどって」

2 単元の目標

様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（〔知識及び技能〕(1)オ）

登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。（C(1)イ）

人物の行動と気持ちを、春の様子を表す叙述と結び付ける学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。（C(1)イ）	①人物の行動と気持ちを、春の様子を表す叙述と結び付ける学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

人物の行動と気持ちを、春の様子を表す叙述と結び付ける。この教材では、行動・叙述・想像した気持ちの対応メモを残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

気持ちの語が出ない場合も、行動をどう説明したかを先に聞く。本文の根拠と自分の想像を分ける。想定する難しさは、気持ちを表す一語を当てるだけで終わる。評価では、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えているかを、行動・叙述・想像した気持ちの対応メモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～4	○人物が動いた場面を選び、その前後の叙述と風景の言葉を読む。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確認める活動）
第3次	5～7 （本時）	○人物が動いた場面を選び、その前後の叙述と風景の言葉を読む。本文の語を根拠に気持ちを説明し、異なる考えは根拠の違いを比べる。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	8	○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確認めて聞く。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (5/8)

(1) 本時の目標

登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。(C(1)イ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「行動の前後にある言葉から、どんな気持ちが想像できますか」 【めあて】人物の行動と気持ちを、春の様子を表す叙述と結び付ける。 〈予想される児童の反応〉 ・行動だけでなく周りの様子も手掛かりになる。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「行動の前後にある言葉から、どんな気持ちが想像できますか」 人物が動いた場面を選び、その前後の叙述と風景の言葉を読む。本文の語を根拠に気持ちを説明し、異なる考えは根拠の違いを比べる。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・行動だけでなく周りの様子も手掛かりになる。 ・前の場面から考えると気持ちが分かる。	気持ちの語が出ない場合も、行動をどう説明したかを先に聞く。本文の根拠と自分の想像を分ける。 想定する難しさ：気持ちを表す一語を当てるだけで終わる。 評価では、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えているかを、行動・叙述・想像した気持ちの対応メモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 行動・叙述・想像した気持ちの対応メモを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・前の場面から考えると気持ちが分かる。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「行動の前後にある言葉から、どんな気持ちが想像できますか」。中央は、行動・叙述・想像した気持ちの対応メモに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

